

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4292000074		
法人名	社会福祉法人 あすか福祉会		
事業所名	高齢者グループホーム 和庵 1Fユニット		
所在地	長崎県対馬市厳原町国分1428番地1		
自己評価作成日	平成30年2月10日	評価結果市町村受理日	平成30年5月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構		
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内		
訪問調査日	平成30年3月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご入居者の皆様においては、お一人お一人の心身の状態に応じて洗濯等、一緒に生活する中で、何かしらの役割を持ち、張り合いを持って生活していただけるよう働きかけを行うよう、スタッフが職務にあたり、御家族と医療機関の連携が図りやすいように訪問看護師のきせつなアドバイスを頂きながらできるだけ入院することなく過ごせるように取り組んでいる。又、折々の季節に応じて旬の食物を提供したり、行事計画を通し、同一事業所の保育園児との交流を取り入れたりと力を入れています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所理念に込められた思い「人間らしく、そして個人として尊重され、尊厳を保持して生活を送ることが出来る」は、職員に浸透し、全ての支援の根幹に据えられ、入居者本人が望むことを最優先に支援を行っている。事業所での暮らしは、各自生活スタイルに自由度があり、在宅時の生活習慣を継続することができ、入居者のストレスを軽減している。また、入居者が居場所や役割を持つことで生きる意欲や安心感を持てるよう、本人のできることを見極め、役割として促している。自治会に加入し、入居者と回覧板を読んだり、棟上げ式の餅拾いに入居者も参加するなど、地域の住民としての姿がある。新たに事業所便りを発行し、家族との結びつきを強めている。管理者と職員のチームワークの構築や働き易い職場環境は、入居者への優しい支援へ繋がっている。穏やかな生活がある事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人全体の理念である「尊厳」を柱に、ご入居者お一人お一人が地域の一員として、その人らしく生活していただけるよう、日常生活の会話、生活の様子から自己決定できるように取り組んでいる。	管理者は法人理念「尊厳」が、日々の介護とどのように関わるか、職員に伝えている。職員は、自分がされて嫌なことは何かを念頭に、入居者支援について考え、取り組んでいる。入居者の満足度を追求する中で、入居者本位を具現化し、日々の支援に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議を通して、地域包括支援センター。地区の区長さん・地元消防団員の皆様と連携を図り。近隣住民との挨拶。病院受診時の知人との触れ合いを大切にしている。	自治会に加入し、地域回覧板や市広報誌を入居者と読んでいる。職員は、地域災害訓練の炊き出しに参加している。事業所の行事やボランティア、保育園児の訪問など、触れ合う機会がある。近所の棟上げ式に、入居者と餅拾いに出掛ける等、日頃から地域の一員として交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご入居者のご家族・見学者・入居相談等の際には、個別に相談に応じてはいるが、地域全体には活かせていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開始し、ご利用者の生活の様子を報告しながら、他職種の方々から様々なご意見や施設への要望等を知る事が出来ており、運営・サービスに活かす事が出来ている。	規程メンバーで、年6回運営推進会議を実施している。事業所の状況報告の後、参加メンバーによる意見交換が行われている。欠席したメンバーには議事録を送付している。災害について議題にあがったときは、区長から地域分団との連携について、アドバイスがあった。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者をはじめ、地域包括センター職員や保護課担当者等とも、密に連絡を取り合いながら連携を図る事が出来ている。	支援や事業所の取組みについて状況に応じ、行政担当課職員と連絡を取っている。直接窓口へ出向いたり、電話するなどさまざまである。保護課とも連携している。包括支援センターのイベントに職員が参加している他、介護報酬などの最新情報提供や研修受講案内がある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	言葉の拘束。語尾の使い方・玄関は昼間は開錠。スタッフ一同周知徹底して取り組んでいる。又、自分におきかえて、されたら嫌な事を念頭において行動している。	研修担当の職員と管理者が講師となり、年2回身体拘束の内部研修を実施している。転倒リスクの高い入居者は職員の目の届きやすい部屋へ移動を行いセンサーマットの使用はない。言葉の拘束も職員同士で注意しあい、入居者が外に出る時は一緒に付き添い、拘束のない支援に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	普段の言葉かけの中で、お互いに注意しながらケアにあたっている。が、たまに危険を伴うような状況に遭遇した時は、大きな声で名前を呼んでしまう事がある。		

高齢者グループホーム 和庵（1F・2Fユニット共通）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護事業については現地点では活用していない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	その都度詳しく説明を行い、理解して頂いた上で同意書に記名・捺印をして頂いている。が、当日では納得は出来ていないようで、後日、「この事についてはどうやったかね」と説明を再度させて頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に御家族代表の方にも参加して頂いている。又、玄関近くの窓口にご意見・ご要望の用紙を設置している。	家族の要望・苦情の窓口は第三者委員を設置し、家族へ説明し署名を得ている。事業所の行事に家族を招待し、家族の面会時や遠方の家族へは電話で入居者の様子を伝え、また、事業所便りを新たに発行するなど、家族の信頼の構築に努めている。ただし、行事への参加は少なく、要望、提案の抽出はこれからである。	家族が意見要望を出しやすいように、事業所便りの継続や家族会など事業所との関わりが深まる工夫を期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の研修会・ミーティングを開催し、スタッフからの気づきや提案を業務に反映している。	職員は毎月のミーティングやユニット会議、日々の業務の中で提案・要望を出している。また、管理者は年2回、職員との個人面談を実施している。業務改善は職員間で話し合い、検討している。我流になっていた介助の方法について専門家に指導を受けるなど、職員意見の反映がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的な人事評価の中で、個人の頑張りや正当に評価されるよう普段から配慮している。又、自己評価を行う事で、自分自身を振り返りきっかけとなっている。給与もアップされやりがいに結びついていると思われる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の研修会の担当者を決めて、徐々に自己啓発出来るようになりつつある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会もあり、情報交換を行なっている。スタッフにおいては他事業所との交流の機会は少ないが、外部から研修に来て頂いたり勉強会を行う事が多少は出来た。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には必ず、事前訪問を行い、ご本人お困りごとや不安に感じておられる事、要望等、ゆっくりお聴きする事で、少しでも安心していただけるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族とも入居前に必ずゆっくりお話をする機会を作り、相談ごとや不安に感じておられることをお聴きし、出来る限り気持ちに寄り添う事が出来るよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	全項目の付けたしであるが、居宅ケアマネからの情報を頂いたり、又、居宅ケアマネ・ご家族・本人様・施設ケアマネでバトンタッチ（紹介）を兼ねて和やかな雰囲気が必要な支援を提供させて頂いている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	心身の状況を踏まえ、残存機能を十分に発揮していただきながら、生活の中で洗濯物を畳んだり、テーブル拭きをして頂いたり、役割を持って生活していただいている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には、日頃の様子を細かくお伝えし、情報を共用し、外泊・外出の協力を頂きながら、スタッフ・御家族と一緒に本人を支援していく体制を心がけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人様は忘れていらっしゃるが、以前利用されていた書店・美容室・歯医者・お寺等にご家族・スタッフが同行し支援に努めている。	職員は、利用開始時のアセスメントの他、本人・家族に聞き本人の生活歴を把握している。新たに把握した情報は口頭伝達その他、記録に残し職員間で共有している。家族と法事に行ったり、命日に自宅へ外泊する利用者もいる。職員は利用者の在宅時代の習慣や選挙の投票など社会生活の継続の支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホール（食堂）で食事以外に10時・15時のお茶会を提供し、気の合う仲間、一人が良いテーブル座席等を把握し、穏やかに時間が流れるよう支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の医療機関・他施設に入居されても、月1回の面会を行っている。又、年賀状を出したりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の生活歴を大切に、日課や趣味、嗜好品等もアセスメントしている。ご本人からの聴き取りが困難な場合は、御家族、サービス提供事業所のスタッフ・ケアマネから情報を頂いている。	職員は毎日の会話の中から、入居者が今したいことを支援に取り入れている。職員から声を掛けたり、そっと寄り添いながら、入居者が安心して話せる雰囲気作りに努めている。特に夜勤時や居室など、1対1で介助する時にゆっくり会話している。得た情報は、業務日誌や口頭で職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	全項目と同じ。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	事前のアセスメントは勿論であるが、日々の体調・心身の状況は変化する為、スタッフ間で記録や申し送りを密に行い、気付きを大切に情報の共有を図っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	色々な視点からの気づきや提案を大事に、プランに把握するように努めている。	本人や家族の意向を汲み、介護計画を作成し、同意を得て、支援を開始している。利用開始時は3ヶ月で評価見直しし、以後6ヶ月毎に評価見直ししている。ユニット会議でカンファレンスし、職員の意見をまとめている。介護計画作成時に、医師や訪問看護師の意見も参考にしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別援助の記録への日々の様子の記録は勿論の事、些細なきづきもスタッフ間で共有できるように取り組んでいる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出来る限りのニーズに対応を心がけているが、柔軟な支援は、時と場合により後回しになる事が多い。		

高齢者グループホーム 和庵（1F・2Fユニット共通）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今回、保育園児との交流が出来た事により、心豊かな1日を送れた利用者様・保育園児の表情はとて大きな社会資源を獲得した事ができた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・ご家族の意向を大事に、訪問看護・かかりつけ医との連携を図りながら、適切な医療を受ける事が出来ている。	かかりつけ医への通院は、管理者が対応し継続している。病状によっては、家族が同行することもある。往診対応や専門科受診、訪問看護など、入居者と家族が納得できる医療を受けられるよう対応している。受診内容は申し送りノートで職員は情報共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	些細な気づきであっても、訪問看護師に相談し、連携と情報の共有を図りながら、早期発見・早期治療に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中も関係が途切れないよう可能な限り面会に行き、病状の把握や病院関係者との連携を図っている。医療機関との情報の共有・交換については対馬版ケアパスを活用している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の有り方については、説明。意向の確認はしている。必要に応じてご家族にも同行受診をして頂き、主治医と一緒に話し合いを進めて行くようにしている。が、現状ではスタッフの不安もあり看取りをする覚悟が出来ていない状況である。	利用開始時に重度化した場合の指針を説明し同意を得ている。入居者の状況変化毎に、主治医を交えて話し合い、終末期に対する支援について検討している。現在は看取りは行っていないが、入居者ができる限り事業所で過ごせるよう、主治医と連携している。職員は看取りの研修を受講し、今後の看取りのあり方について学んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	経験・実践力はまだまだ身についてはいない。実践力が出来るように努めていきたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	火災においては消防訓練を行い、地域との協力体制作りを努めている。自然災害訓練や自主訓練は実施していない。	年2回、昼夜想定災害訓練を行い、内1回は消防署立会いで実施している。地元消防団や地域との連携もある。自主訓練までは至っていない。今年度水害を想定した訓練実施予定である。自然災害計画書を作成し、職員へ説明している。食料の備蓄整備があり、利用者毎に持ち出し備品をまとめている。現在、災害マニュアル検討中である。	非常時に職員が慌てることなく確実に行動できるよう、避難訓練取組回数を見直しに期待したい。また、状況に即した自然災害のマニュアル作成及び訓練実施が望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人格を尊重できるように、敬語を使い敬う言葉かけをスタッフで共有し、笑顔で対応できるように心がけて取り組んでいる。	事業所はプライバシー保護の内部研修を実施し、申し送りはイニシャルで行っている。排泄や入浴介助時は羞恥心に配慮し、また、入居者の人格を尊重した言葉掛けや支援を心掛けている。個人情報の取り扱いや写真掲載は、契約時にアンケート調査し家族の署名を得ている。職員は採用時に守秘義務の誓約書を提出している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段から話や相談しやすい雰囲気作りに努め、本人の思いや希望を遠慮なく表現できるような関わりを意識している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その方の生活リズムに寄り添いながら穏やかに過ごせるように、その日の体調・気分・表情を伺いながら支援できるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	HP受診・外出・誕生会等の行事毎は勿論の事、当日着用する洋服もその人その人のこだわりを大事にしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	おやつレク・行事の際には昔馴染みの料理で話に花が咲いたり、下膳・テーブルの後片付け等一緒に行なっている。	献立は、入居者の希望を取り入れ、1ヶ月毎にユニットで交代に作成している。職員が調理し、入居者は後片付けなど出来る部分を手伝っている。嗜好に対応し、粥や刻み食など嚥下状態に合わせている。家族と外食に行く入居者もいる。季節を感じる料理や行事食や弁当、入居者も一緒に作るおやつなど食事を楽しむ支援に努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量を記録し把握に努めている。又、飲み物のレパートリーも個人の好みや体調に合わせてると共に、美味しく頂けるように工夫をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	お一人お一人の口腔内の状態を把握した上で、朝・夕の口腔ケアを支援し、清潔保持に努めている。		

高齢者グループホーム 和庵（1F・2Fユニット共通）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人の要求や、排泄間隔に合わせ、出来るだけトイレで排泄できるように取り組んでいる。	職員は排泄チェック表を基に、入居者の排泄状況やリズムを把握、共有している。また、排泄の自立支援を理解し、日中はトイレでの座位排泄を基本としている。入居者の排泄状況を基に改善に向けた検討を行っており、声掛けや誘導により、パッド類の使用の減少に繋げている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	腹部のマッサージをしたり、食物繊維や水分を十分に摂る事は心がけているが、慢性的な便秘の方はどうしても緩下剤でコントロールをさせて頂いている。(医師の指示もあり)		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週に6日は入浴できるように浴室の準備は行なっている。個人の体調や気分に応じて対応できている。又、バスクリンを使用して温泉気分を楽しんでもらっている。	入浴は週6日準備し、週3回の入浴を基本としている。車椅子使用の入居者は状態に応じてシャワー浴や浴槽に浸かる支援を行っている。気分や体調不良時は臨機応変に対応している。個人用のクリームや保湿剤を使用する入居者もいる。入浴剤は入居者に喜ばれている。しかし、浴槽が深く入居者が安全に浸れないユニットがある。	浴槽に安全に浸れるように、手すりの設置など改善工夫が待たれる。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の体調や気分に合わせて自由に休んでもらっている。又、夜間の睡眠の妨げにならないように配慮、働きかけも行なっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理については、例えば高血圧の薬とバイタルチェック表を見ながら、定期受診時に血圧の低い・高いを訪問看護師及び主治医に伝え処方内容の検討を相談したりしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味や嗜好品・レクリエーション・季節の行事等、随時行いながら、気分転換や楽しみとなるよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物・美容室・お寺等、希望に沿って実施している。又、ご家族からの外出・外泊支援も協力してもらっている。	桜の花見や天気の良い日は、ドライブや散歩に出掛けたり、玄関前で外気浴を行っている。車椅子利用の入居者は体調に配慮しながら、参加している。受診帰りに売店で買い物したり寿司を買いに行くなど希望に沿っている。その日の外出希望には可能な限り対応し、家族の協力も得ながら外出支援に努めている。	

高齢者グループホーム 和庵（1F・2Fユニット共通）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の能力、希望に応じ家族の意向を聴きながら自己管理をしておられる方もおられるが、管理が困難な方には預り金として、スタッフが管理の支援を行いながら、適宜買い物をお手伝いしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	遠距離の家族や友人に電話をかける支援や、手紙の宛名の確認などの支援を行なっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の清潔の保持に努めている。その他、明るさ・湿度にも気を配り、心地良く過ごせるように工夫をしている。又、季節の花をテーブルに飾ったり、月毎に壁の空間の飾りつけを変え、季節感を大切にしている。	オープンキッチンに繋がるリビングは広く、ダイニングテーブルやソファ、畳コーナーなどゆったりと配置している。歩行器や車椅子の入居者も安全に自立して移動している様子が窺える。観葉植物の鉢植えや季節行事の飾り付け、行事写真の掲示などがあり、入居者が寛いでいる。職員が清掃、換気・室温調整し、快適な共有空間である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル・ソファ等を複数活用し、気の合う入居者同士や職員との関わり、一人でくつろぐ時間が持てるように配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物を可能な限り居室に持ち込んで頂くように御家族にもご協力いただき、本人様が穏やかに過ごせる環境作りに努めている。	居室への持込は自由で、寝具や冷蔵庫の持ち込みもある。筆筒等の調度類や使い慣れた時計や小物類など室内の配置は本人の使い勝手や意思を優先し、各居室は個性豊かである。職員が清掃、換気を行い、入居者が、安心して寛げるよう環境整備に努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	使いやすく、わかりやすく、安全にも配慮しながら自立した生活が送れるよう配慮している。		